令和７年度
すくわくプログラム
活動報告書

とちの木保育園

五感を使ったアート

設定理由　：　子ども達の感性を様々な技法で表現するため

活動のねらい：　「ものを知る」「感じる」「表現する」を目的として、自分の思いを感じたままのびのびと表現する。

対象クラス：　　５歳児クラス１２名

スケジュール：　　令和７年４月～令和８年３月（計１２回）

かぼちゃの立体工作

２０２５年９月９日

かぼちゃを触って、感じて作ろう！

あるお花の写真を持ってきました。



- 何の花だと思いますか？
  「きゅうり！」
- 少し経つと、花の下に実が膨らみます。「トマトかな？」
- 葉の写真も見てみます。
  「かぼちゃ？」「メロン！」「ナス」
- 花がしぼんで、できた実を見てみると…「かぼちゃだ！」
- 普段食べるかぼちゃは緑色が多いですが、世界には食べられるものそうでないもの、色々持ってきました
- 中でも不思議な形をしているのが「バターナッツ」。ピーナッツみたいな形ですね。種はどこにあると思い

- 「下の大きいところ！」「全部！」「真ん中に縦にある」
- 中を切って見てみると、一番下に種がありました。
  香りは…「ナシみたい！」「りんごの匂い！」



- かぼちゃの試食をします。
  「いつものにおいだ！」「おいしい！」「おかわりする！」







今日はこのかぼちゃを新聞紙で作ります。

● 様々な形の中から、好きなカボチャを選びます。触ったり転がしたり、匂いを嗅いでみたりしてカボチャの感触を楽しみます。「これもタネ見たいな～」



● まずは新聞紙をビリッと半分にして、さらにもう半分に割きます。
それを使ってかぼちゃの花と実を作り、テープで止めます。
実の部分に新聞紙を巻き、かぼちゃを成長させていきます。






● 大きさと形が決まったら、千切った和紙を貼って色を付けます。
本物と同じ色に限らず、味の色や触った感触の色などもつけて仕上げました。








ビビッドな色が目を惹きます。鮮やかな中の白や黒が効いていますね。



綺麗と感じる色を選んで、自分だけのかぼちゃにしました。キラッと光る銀色がポイントですね。



全面オレンジに仕立てて、まるで本物のハロウィンかぼちゃのようですね。新聞が見えなくなるように、丁寧に和紙を貼りました。



水糊の感触を楽しみましたね。手にも新聞にもたくさん糊をつけて、和紙を貼り合わせました。



明るい印象の和紙を選んでカラフルに仕上げました。甘い味がしそうなかぼちゃです。



大きくて黄色いかぼちゃを、同じ形になるように作りました。色にもこだわりましたね！



ひときわ大きな食べ応えのあるかぼちゃ！和紙を貼るのは大変だったけど、かぼちゃの凹凸やヘタの形まで新聞でしっかり再現しました。



星型のおもちゃかぼちゃを選んで、じっくり観察して作りました。凹凸や色も本物と同じように作りましたね。



たくさんの色の和紙を使いました。味の色や香りの色、様々な気持ちが色に現れているようです。



ほくほくの美味しい味が伝わってくるようなかぼちゃですね。丸い形、緑の皮の色をじっくり作り込んでいました。



白くてボコボコしていて、ちょっとピーマンみたい！そんなかぼちゃと似た色の和紙だけを選んで作りましたね。



小さな可愛らしいかぼちゃを作りました。爽やかな味がしそうな色合いですね。

活動内容

４月　大空を泳ぐこいのぼり
５月　川の流れのペンスタンド（立体）
６月　梅雨のガラス絵
７月　鯵の量感画
９月　飛ぶ人（立体）
10月　かぼちゃの新聞工作（立体）
11月　銅板の枯れ葉
12月　ランプシェード（平面立体仕上）
１月　雪化粧する樹木
２月　鬼の顔（立体）
３月　自画像

振り返り

・年間通して臨床美術士の方と一緒に色々な画材や技法を使って平面や立体を創っていった。きれいに描く、上手に描くことが目的ではなく、「ものを知る」「感じる」「表現する」ことに重点をおき、子ども達は、うれしい、楽しい気持ちを作品の中でのびのび表現していた。においを嗅ぐ、触ってみる、食べてみる、音を聴くなど五感を使って、自分が感じたままに表現することに、始めは戸惑いがあった子もいたが、だんだんとありのままの自分の表現をするようになり、子どもの想像力・創造力が磨かれていった。また、作品について友だちや臨床美術士の方、保育士、保護者に自分の作品を認められることで自己肯定力とお互いを認め合う環境ができていった。